

Keio Medical App Challenge(K-MACH)が慶應義塾大学医学部 健康医療ベンチャー大賞と Innovation design platform の共催により、8/25,9/1,8,15 の4日間、18:30-20:30 で行われました。合計21名の学生が集まり、慶應義塾大学内のみならず、東京大学、東京医科歯科大学、京都府立医科大学、国際医療福祉大学等の学生が集まりました。

各回は最初に講演があり、その後にグループワークに分かれるスタイルで行われました。講演者は株式会社インキュベータ代表取締役社長や SBI 大学院大学 MBA コース客員准教授を兼任される石川明様、神奈川県医療危機対策統括官や厚生労働省健康局 参与 新型コロナ対策・情報戦略担当/CIO 補佐/入国者健康確認センター総責任者補佐を兼任されている畑中洋亮様、慶應義塾大学理工学部 応用化学科 教授 奥田知明様の三名でした。上記の三名は、最終日の審査員としても参加されました。

COVID-19 の影響もあり、例年の対面方式を中止し Zoom を用いた完全オンラインのイベントとして今年度は開催しましたが、その結果として却って様々な地域から参加者も集まり、その相互作用により多くの独創的なアイデアが生まれました。

最後の審査会ではそれぞれのチームが3日間の成果を発表し、講評では「科学的なデータに基づく、ということ意識してほしい」「事業を作っていくときには、現実をしっかり見つめ、どこからやっていくべきかを考えて欲しい」等のメッセージが審査員から贈られました。

